

農業遺産に関する観光資源

環境分析

(5) 宿泊

① 秋津野ガルテン



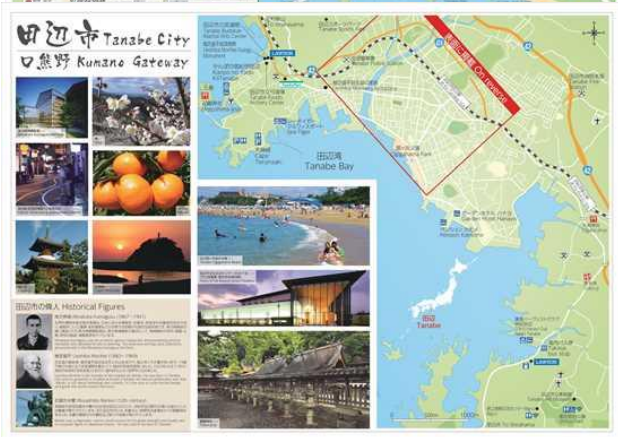
地域住民が出資し誕生させた都市と農村の交流を目指したグリーンツーリズム施設。田辺市立上秋津小学校の跡地で、校庭内には地元のお母さん方がつくるスローフードバイキング料理を提供する農家レストランや宿泊施設、お菓子体験工房や旧木造校舎を活かした体験棟、また地域のみかん作りの歴史を紐解いたみかん資料館などがある。
数々のメディアでも取り上げられており、視察時にも取材が行われていた。広報においての発信も重要な観光戦略の1つであると感じた。

② (tanabe en+)

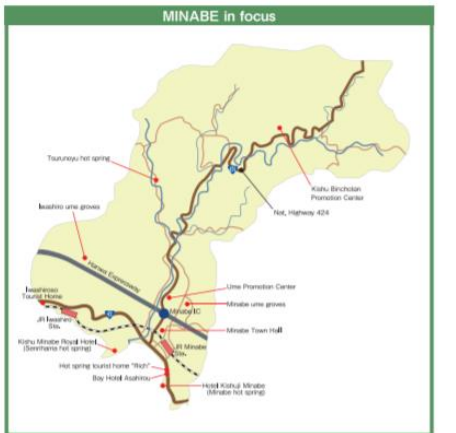


tanabe en+（タナベエンプラス）は地域の魅力的なヒト・モノ・コトをゆるやかに混ぜ合わせ、そこに暮らす人々にも、訪れた人々にも、新たな発見や出会いのご縁を結ぶ交流拠点。
働くことと遊ぶことが隣り合わせの空間で、いろんなアイデアが触発され、ここで産まれたものがそのままカフェやショップで楽しめる。そういった循環型の新たな地域プロモーションに取り組んでいる。
行政と連携し、宿泊施設のあっせん等も行っており、様々な機関を結ぶ地域の橋の様な存在である。

【田辺市MAP】



【みなべ町MAP】



当該地域の農林水産業システム

環境分析

宮崎県日南市は、「造船材を産出した飫肥(おび)林業と結びつく「日南かつお一本釣り漁業」という農林水産業システム名で日本農業遺産に認定されている。(令和3年2月認定)

九州南部の小さなまち宮崎県日南市。近海には黒潮が流れ、市域のおよそ8割が森林、うち7割が飫肥(おび)杉の人工林である。近海かつお一本釣り漁業の漁獲量は、四半世紀にわたって日本一となっている。

当地域のかつお一本釣り漁業は、およそ300年前、紀州藩から当地域に漁法が伝わったとされています。**漁獲効率よりも、かつおの資源を守ることを優先した伝統漁業で、釣り・魚群探索・漁具作製などの昔ながらの技術が受け継がれている。**このシステムは、藩政末期から昭和初期頃まで造船材に特化した杉の人工造林を行った歴史を持つ飫肥林業と絡み合って発展し、広大な飫肥杉の山々の恵みを伝統漁や地域の中で利用している。飫肥杉林から流れ出た栄養塩が育む豊かな漁場から、伝統漁、漁村内での飫肥杉利用、海と山の結びつきを感じさせる信仰、風習、食文化まで、かつお一本釣り漁業を核とした循環が形成されている。

「日本農業遺産」としての価値

■現代のSDGsに配慮した伝統漁法

日南かつお一本釣り漁業は、黒潮が日本に接岸する玄関口に当たる日南市を拠点に、日本近海を北上するかつおを船団で追い、漁師が竿で一匹一匹釣り上げていく、ダイナミックな漁業である。かつ、稚魚まで取り尽くす「網」ではなく、かつおの鮮度や痛みを最小限に留め、漁獲効率よりもかつおの資源を守ることを優先した、SDGs(持続可能な開発目標)にも合致する誇りある伝統漁法である。

漁法の確立から300年以上が経過するが、その発展は江戸時代に当地域に存在し、造船材に特化した人工造林を行った特殊な飫肥林業と絡み合って、今日まで地域を支える産業として継承されてきたものである。

■亜熱帯動植物など多種多様な生態系

市の8割を占める森林の7割にも及ぶ飫肥杉人工林と289種の苔の宝庫である天然林から流れ出る豊富な栄養塩と黒潮から作り出された豊かな海は、漁業者により丁寧に保全され、日南かつお一本釣り船団の最大の母港である目井津港だけでも200種を超える魚が水揚げされている。また、江戸時代から植林が続けられている飫肥杉には、品種群として多様な18種が存在する。

■日本発祥にまつわる神話の舞台

当地域がある宮崎県は日本最古の歴史書である古事記・日本書紀にも地名が多く登場する、日本発祥にまつわる神話の舞台となっている。海幸彦、山幸彦に関する伝承はまさに、かつお一本釣り漁業と飫肥林業の関係を想起させる物語となっている。

国の指定名勝である「鵜戸神宮」や漁祈念「恵比寿まつり」など、かつお漁にまつわる神社や祭礼があり、かつお食から派生した独特の甘い醤油文化も存在する。漁業協同組合や宮崎県立高等水産研修所等の社会組織は当地域のかつお一本釣り漁業を支えており、また、林業者も「漁民の森」活動において協働している。

農業遺産に関する観光資源

(1) 自然・景観

環境分析

①猪八重溪谷



猪八重溪谷は、五重の滝を中心に20数カ所の滝群が点在している。一定の湿度と温度が保たれているため、貴重なコケ類の宝庫としても知られており、世界中で約1800種類あるといわれるコケの中の約250種以上が溪谷一帯に存在している。稀少生物の宝庫で苔研究者の聖地でもある。また、森林セラピー基地の認定を受けており、副交感神経活動を高め、ストレスホルモン濃度を低下させるなどの生理的な効果、心理的な緊張や不安を和らげ、疲れを取り、気持ちを落ち着かせる効果、活気の気分を高める効果がある。また、7つの架け橋と五重の滝、流合(はきあい)の滝、岩つぼの滝などがある片道3キロメートルのウォーキングコースがあり、ガイドの説明を聞きながら、貴重な苔や季節ごとの植物などを観察することができる。

②大島



日南市南郷町にある日南海岸の中で最大の無人島。目井津港より連絡船あけぼの3に乗船し、約15分で渡島できる。トレッキングコースは全長約5キロメートルに及び、島内には、手つかずの大自然が残っており、固有の亜熱帯植物の群生や日本初の無筋コンクリート造りの鞍埼(くらさき)灯台がある。かつての漁業の一つで、浮世絵にも描かれる大島と船の風景は地域の原風景である。島内の中央部のアドベンチャーキャビンは、38名まで宿泊可能な団体用キャビンと、6人用のコテージが2棟あり、いずれもキッチン、バス、トイレ、エアコン付きで、1年中利用できる。ここを拠点に、各種合宿、キャンプ、マリレジャー、島内散策などを楽しむことができる。また当市では、積極的にグリーンツーリズムの取組みも行っている。

③服部植物研究所



公益財団法人 服部植物研究所は、飫肥城下町内に拠点を構えており、世界で唯一のコケ専門の研究機関である。コケ植物の調査・研究を推進し、標本や図書等の研究・遺伝資源を将来にわたって保存・継承していくことで学術研究活動の発展に貢献している。当研究所内には、約52万点の標本を所蔵しており、一般見学が可能である。顕微鏡でのコケ観察、関連のDVD視聴や書籍等の閲覧、ポストカードの購入、苔のテラリウム体験もできる。

④虚空蔵島(こくぞうしま)



日南市南郷町目井津港内にある周囲約1キロメートルの小島。亜熱帯植物群は国指定天然記念物に指定されている。モチバナを優先種とする百三十余種の亜熱帯植物が群生しており、中でもフカノキはこの島が北限である。また、飫肥藩初代藩主伊東祐兵(すけたか)の奥方の勧請(かんじょう)により、虚空蔵菩薩が祀られた。

⑤県亜熱帯作物支場(有用植物園、トロピカルドーム)



日南市南郷町に所在しており、亜熱帯性果樹の産地維持・拡大を目指す栽培技術の開発や新規品目の技術開発に取り組んでいる宮崎県総合農業試験場の敷地内にある亜熱帯植物園。バナナやピロウなどが鬱蒼と茂る森を再現した「ジャングルクルーズ」、サボテンがそびえる岩山「ロックマウンテン」、「ジャカラングの森」、「トロピカルドーム」など様々な趣向を凝らした園内では様々な南洋植物を観察できる。入園料は無料。県内より課外学習で小学生団体の受入れも行っている。

農業遺産に関する観光資源

(2) 歴史・文化

環境分析

① 飫肥城址・飫肥城下町



飫肥城は伊東氏と島津氏により、103年にわたって激しくその領有権を争われた城である。天正16年（1588）、豊臣秀吉から伊東祐兵（すけたか）が飫肥の地を与えられ飫肥城に入城、伊東氏飫肥藩の藩庁として繁栄した。明治初期まで280年間、伊東家は14代にわたって飫肥藩を収めた。飫肥市街北部の丘陵に曲輪を幾つも並べた群郭式の平山城であり、伊東四十八城の一つに数えられる。現在、日本丸跡には日南市立飫肥小学校（藩校の振徳堂が前身）が建てられている。飫肥観光ボランティアガイドより飫肥藩の歴史、飫肥林業の成り立ちについて、説明を受けながら、飫肥城・飫肥城下町を散策することができる。飫肥城下町は、九州では最初の国の重要伝統的建造群保存地区に認定されており、飫肥の歴史、文化を感じさせる建物が多く点在している。飫肥城址内には多数の階段があるため、スニーカー等の歩きやすい靴を推奨。城下町内を巡るには、レンタサイクルの利用も有効。

② しあわせ杉



飫肥城址内の日本丸跡に進んでいくと、4本の杉が石垣に囲まれて四隅に立つ場所がある。4本の杉が合わさる（すなわち、“しあわせ”）ことから「しあわせ杉」と呼ばれるようになった。その中央、対角線の交わる場所は、「しあわせパワー」を授かるパワースポットとして知られている。飫肥林業は、400年の歴史を持つと言われている。伊東祐兵（すけたか）は、1588年に飫肥の地を得て飫肥藩の初代藩主となったが、窮乏する藩の財政を立て直すため、1623年頃から山林や原野に杉の挿し木をして植林を行ったことが、飫肥林業の始まりと言われている。飫肥杉の特徴は、樹脂を多く含んでいるので、弾力に富み、水を吸収することが少なく、水切れが良い、またシロアリ等も付きにくい。これらの特徴があり、当時、木造船用の弁甲材として、出荷され飫肥杉の名を轟かせた。

③ 飫肥城歴史資料館



城址の敷地内にある白壁の建物。飫肥藩ゆかりの伊東祐兵（すけたか）や山田匡得の甲冑・刀剣、武具・古文書・衣服等、当時の暮らしぶりを今に伝える歴史資料約220点が展示されている。

④ 豫章館



飫肥藩の典型的な武家屋敷である。伊東家の家臣伊東主水（もんど）の屋敷だったこの地に、明治2年、飫肥第14代藩主伊東祐兵（すけより）が飫肥藩知事に任命されて城内より移り住んだ。南側の庭園は、規模と手入れの良さでは九州でも有数である。主家は明治元年につくられ、飫肥藩の典型的な武家屋敷で、邸内にあった樹齢数百年の大楠にちなんで豫章館と名付けられた。昭和57年に伊東家から市へ寄贈された。

⑤ オビラタリー

店内は飫肥杉の香りに包まれおり、obisugi designやsugift等の飫肥杉製品を購入することができる。

農業遺産に関する観光資源

(3) 歴史・文化

環境分析

⑥堀川資料館



日南市油津の堀川沿いに、一見民家と間違えてしまうような飫肥杉造りの情緒的な堀川資料館が建っている。館内には、各種観光パンフレットがあり、2階には、堀川橋周辺で撮影された映画「男はつらいよ～寅次郎の青春」の写真や出演者のサイン、シリーズポスター等が展示されています。また、2階ベランダからは美しい堀川の眺めを楽しめます。護岸や堀川橋は国登録文化財に指定されている。

⑦夢見橋



樹齢120年の飫肥杉と飫肥石を使い、くぎなどの金属を使わない伝統工法の「木組み」で造られている。天井は飫肥杉の特徴である弾力性を生かした「曲げ木」でできています。夢見橋周辺の広場には、赤レンガが敷き詰められています。また、堀川運河の護岸には飫肥杉で造られたウッドデッキが整備されており、新たな油津のシンボルとして、市民の憩いの場にもなっている。

⑧鵜戸神宮



太平洋に突き出した鵜戸崎岬の先端にある洞窟の中に、朱塗りの色鮮やかな本殿が鎮座する珍しい神社。かつお漁師も信仰する海洋信仰の聖地。国指定名勝であり、岬のまわりには奇岩、怪礁が連なり太平洋の荒波が打ち寄せて、美しい景勝地である。

鵜戸山八丁坂は、鵜戸山の参拝路として吹毛井港から神宮の山門までの長さ約800メートル(八丁)の石段が続いています。吹毛井側から上り438段、下り277段 計715段 尼僧が頭に磯石をかついで築いたと伝えられている。また、男性は左手、女性は右手で願いを込めながら運玉を投げ、亀石と呼ばれる岩の枡形に入れば願いが叶うといわれている。

(4) 体験・アドベンチャー

①大島

日南市南郷町にある日南海岸の中で最大の無人島。トレッキングコースは全長約5キロメートルに及び、島内には、手つかずの大自然が残っており、グリーンツーリズムの拠点となっている。詳細については、1頁参照のこと。

②栄松ビーチ・キャンプ場



日南市南郷町にある正面に孤島を臨む遠浅で透明度抜群のエメラルドグリーンの海。スキューバダイビング、シュノーケリング、シーカヤックなどのマリンスポーツの拠点としても知られている。隣接している栄松キャンプ場では、常設テントがあるため、利用すれば、気軽にキャンプが楽しめる。

農業遺産に関する観光資源

(5) 食

環境分析

①かつお炙り重



かつお一本釣りの水揚げ量が日本一の日南市で誕生した新・ご当地グルメのかつお炙り重。各店オリジナルの2種類の漬けかつおを七輪で炙って、重箱に盛られたご飯に載せて食することができる。副菜や汁物についても、各店趣向を凝らしており色々な楽しみ方があり、県内外問わず、観光客に人気を博している。

②かつおめし



「かつおめし」は、漁業の町南郷の漁師料理がルーツである。かつお船の中でとれたてのかつおのさしみを食した後、残ったさしみをご飯の中にいれ、熱い茶をそそいでかき込んだのがはじまりとされている。煎りゴマの香りが魚の臭いを消し、食べやすく、誰にでも愛される料理の一つである。市内レストランでは、朝食としても提供されている。

③日南海岸伊勢えび



伊勢えび漁解禁に合わせて、宿泊施設やお食事処など日南市内の各店舗で、「日南海岸伊勢えびまつり」が開催されている。毎年9月～11月に開催され、今年で36年目を迎える。

日向灘の荒波にもまれ、黒潮の恵みをたっぷり受けた身の締まった日南海岸獲れの伊勢えびは、身も大ぶりで柔らかな食感で日南を代表する秋の味覚として親しまれている。リーズナブルな値段で伊勢えびを味わえることもあり、県内外より多くの観光客が訪れている。

④魚のすり身天ぷら(おび天・びび天)



日南地方に江戸時代から伝わる庶民の味である。近海でとれた新鮮な魚のすり身に、豆腐や黒砂糖、味噌をまぜ合わせて作る「おびの天ぷら」は、ほんのり甘くてやさしい風味が魅力的である。飫肥城址・大手門近くで営業している「おび天蔵」ではお土産購入だけでなく食事でも可能である。なかでも人気のメニューは「華定食」であり、おび天と飫肥近辺の郷土料理を堪能することができる。地元の食料品店である、スーパー戸村グループ各店でも取り扱っている。

⑤魚うどん



戦時中、主食が不足していた頃、代用食として魚のすり身と片栗粉を混ぜ合わせて作られたのが始まりである。戦後に、平和の中ですっかり忘れられていた懐かしい味を再現したところ、老若男女問わず、人気を集めた。慶弔仕出しにも提供されることが多く、現在でも多くの人々に親しまれている。

農業遺産に関する観光資源

(6) 宿泊

環境分析

①ホテル丸万



目井津港のすぐそばに立地しており、仲買人の資格を持った社長が日々厳選した地元の海の幸を提供している。宿泊の利用だけでなく、慶弔仕出し、日帰りのお食事を楽しむことができる。積極的に各種合宿の受入れも行っており、洋室(ツインルーム)や定員利用可能な広い和室(8~15畳)、宴会場(50畳)を有している。当館以外にも南郷中央公園、栄松(エイマツ)ビーチキャンプ場、大島の合宿手配、各種マリンスポーツ、クルージング等の手配も可能である。宿泊業、飲食業(仕出し含む)だけでなく、バス事業、製造業も手掛けており、地元根付いた企業である。社長による華麗な「かつおの捌き実演」も見応えがある。

②日南海岸 南郷プリンスホテル



日南海岸国定公園の南端、客室、レストラン、ラウンジ、露天風呂、全てがオーシャンビューのホテルである。バルコニー付きのすべての客室から日向灘の雄大な海や大島などの島々を一望できる。近辺ではマリンスポーツ、水中観光やジャガランダをはじめとする亜熱帯植物の観賞などを楽しむことができ、観光の拠点としても利用可能である。埼玉西武ライオンズのキャンプ宿泊施設としても利用されており、ファンにはたまらない、魅力たっぷりの仕様を施された客室もある。

③季楽 飫肥 合屋邸



飫肥城下町の中心部に佇む一棟貸しの宿である。江戸時代に中級家臣がこの場所に屋敷を構えており、現在宿として使われている部分はその長屋門にあたる。道に面する横長の平屋建てがその特徴である。宿の広い中庭は、かつて母屋のあった場所で、家臣たちの生活を支えた井戸が現在でも残されている。囲炉裏と高い天井、居間を取り囲む土間には、どこか懐かしさを感じる「おくどさん」と呼ばれる日本の伝統的なかまどと、現代的なキッチン設備を備えている。また浴室には、ゆつりと寛げる高野槇の浴槽を設けている。最大6名まで宿泊可能。合屋邸は歩道脇の水路を鯉が泳ぐ「後町(うしろまち)通り」に面しており、美しい飫肥城下町の散策の拠点としても利用可能である。

④PAAK Hotel 犀 -sai-



飫肥城址に程近い、一棟貸しの古民家宿である。飫肥城下町に残る歴史情緒や、地域の魅力を体感できるよう、いくつかの「さい」をコンセプトに築100年の趣のある空間で、季節の移ろいを感じながら、ゆったりと寛げる。
「細」…細部にこだわり、モノに力強さを与える。
「再」…古民家を再生し建物にもう一度明かりを灯す。
「彩」…古き良き色味を残した無彩色の空間に芸術展示品や企画で彩りを加えていく。
「差異」…伝統的様式を残し新しく加える現代との差異を感じる。

農業遺産に関する観光資源

環境分析

(7) その他

①武家屋敷 伊東邸



店舗は、藩主伊東氏の分家筋の由緒正しいお屋敷を改装。本物の武家屋敷の中で歴史を感じながら、地元の厳選した食事やお茶を楽しめる。街歩きで疲れた際は、この特別な空間でゆっくり寛げる。店舗近くの小径では、歴史を感じさせる苔むした石垣、色鮮やかな鯉が自由に泳ぎ回る水路があり、九州の小京都として、どこをとっても絵になる風景が広がっている。

②南郷地方卸売市場



目井津漁港内にある卸売市場。近海の様々な地魚が水揚げされており、一般の観光客も自由に見学できる。場内は、漁業者、南郷漁協職員、仲買人、小売業者等で大いに賑わっており、自由に交流を持てることが魅力的である。午前7時に開始されるせりの様子は、活気に溢れており、まさに圧巻である。

③阪元醸造合名会社



大正十二年創業、江戸時代末期に作られた木桶で、約一年カイ棒で混ぜ発酵したもろみより、丁寧に搾り出された生醤油に甘味料を加え製造している。九州自慢の甘い醤油でお刺身にそのままかけて美味であり、煮付けなどの甘味の調整も簡単である。濃度、甘味度合い等、10種類より選ぶことができる。

④港の駅めいつ



県内有数の近海カツオ一本釣り基地である目井津港。南郷漁協直営の当施設では、目の前に広がるめいつの海を眺めながら、その日獲れの新鮮な魚を食べることができる。めいつ獲れの新鮮な海鮮・郷土料理を求めて、週末はもちろん平日でも遠方から多くの客が訪れる県南部きっての人気レストランである。めいつの定番漁師めし「カツオめし定食」はもちろん、新・ご当地グルメの「かつお炙り重」は絶品である。また、物産館では、鮮魚や館内で加工した特産品の販売もしており、市価より安く手に入り、県内外問わず、人気が高い。かつおカレーやかつおめしチップスがオススメ。

⑤道の駅なんごう



大小の島々が連なる青い海を一望できる、南国ムードいっぱいの道の駅。国道448号線沿いにあり、眼下に広がるオーシャンビューのパノラマは一度見るとまた来たいと思うほどの絶景である。マンゴーソフトやマンゴーパフェを食べながら、眺望を楽しむ贅沢なひとときを過ごせる。またここでしか入手できない「なんごう産マンゴーのビューレ」を使用した「なんごうロール」は是非購入したい。試食、試飲も可能であり、ドライブ休憩としても、気軽に立ち寄ることができる。

農業遺産に関する観光資源

環境分析

【日南市MAP】



【飼肥エリア】



【油津エリア】



【目井津エリア】

